

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
キャリア教育Ⅲ（ビジネスデザイン・情報・ファッション） Career Education Ⅲ		2年	前期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
1単位	演習	必修（ ）		特になし
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
特になし				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
特になし				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
川副 令	授業中に指示します	授業中に指示します		授業中に指示します
授業の概要				
就職し社会人となってから役立つ様な基礎的知識や態度を身につけ、自己を生かす職業に就くために必要になる知識や技術や望ましい態度等を学ぶ。				
授業の目標				
①より良い進路実現へ向けて課題を見出し、解決へ向けて努力できるようにする。 ②職業に関わる価値観や役割や責任を理解し、心構えを作れるようにする。 ③自分がどのような職業に興味があり、向いているのかを具体的に考えられるようにする。 ④相手の伝えたいことを察し、相手を気づかいながら自分の思いを伝えられるようにする。 ⑤就職し社会人となってから役立つ様な基礎的知識や態度を身につけることができるようにする。				
授業の方法				
各クラスで個別ワークやグループワーク、アクティヴ・ラーニングを実施する。グループワークでは先生や仲間と積極的に関わるようにし、課題はキャリア形成や職場での問題解決のために必要なことを用意しているので、自己を振り返る機会を持ち、気付いたことを文章で表現するよう心掛けるようにして欲しい。				
学習の成果（学習成果）				
(1)自分の職業生活を設計できる。 (2)自己の職業への適性を知り、必要な能力を高めることができる。 (3)職場環境に適応し、そこでの問題を解決するための活路を見出すことができる。 (4)就職活動を通して進路を実現し、職場での基本的な問題の解決ができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	オリエンテーション。春休みの課題を提出。 進路個別面談、進路活動報告と新聞記事の活用は毎回のレポート課題として行う、キャリアデザイン(履修計画)の再考。			
第2回目	進路個別面談、進路活動報告、新聞記事の活用、自己PRの作成:学生時代に力を入れたことについて(個別ワーク・発表)。			
第3回目	進路個別面談、進路活動報告、新聞記事の活用、会社選びの基準について自分の価値観を確認する(個別・グループワーク)。			
第4回目	進路個別面談、進路活動報告、新聞記事の活用、各自の就活スキルの弱点と解決①(個別・グループワーク)。			
第5回目	進路個別面談、進路活動報告、新聞記事の活用、各自の就活スキルの弱点と解決②(個別・グループワーク)。			
第6回目	進路個別面談、進路活動報告、新聞記事の活用、内定辞退の対処法(再確認)と内定礼状の作成(個別・グループワーク)。			

第7回目	進路個別面談、進路活動報告、新聞記事の活用、各自の就活スキルの弱点と解決③(個別・グループワーク)。
第8回目	進路個別面談、進路活動報告、新聞記事の活用、進路活動の振り返りとキャリア・カウンセリング利用の検討(個別・グループワーク)。
第9回目	進路個別面談、進路活動報告、新聞記事の活用、各自の就活スキルの弱点と解決④(個別・グループワーク)。
第10回目	進路個別面談、進路活動報告、新聞記事の活用、各自の就活スキルの弱点と解決⑤(個別・グループワーク)。
第11回目	進路個別面談、進路活動報告、新聞記事の活用、各自の就活スキルの弱点と解決⑥(個別・グループワーク)。
第12回目	進路個別面談、進路活動報告、新聞記事の活用、各自の就活スキルの弱点と解決⑦(個別・グループワーク)。
第13回目	進路個別面談、進路活動報告、新聞記事の活用、進路活動を振り返り夏休みの過ごし方について考える(個別ワーク)。
第14回目	進路個別面談、進路活動報告、新聞記事の活用、夏休みの計画を立てる(個別ワーク)。
第15回目	進路個別面談、進路活動報告のまとめ、新聞記事の活用のまとめ。発表。

成績評価の方法と基準

評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	30%	最高水準としては、講義者の話を集中して聞き、質問に主体的に答えられること、与えられたテーマについて仲間の意見を聞き、自分の考えを述べられることが期待される。
レポート	70%	春休みの課題20点分に加え、進路活動報告、新聞記事の活用 各5点をそれぞれ7つ以上提出すること。満点＝各設問に適切に答えているか、自由記述は8割以上記入されているか。締め切りを過ぎたら減点する。
調査報告書		
小テスト		
試験		
発表内容(態度含む)		
その他		

教科書と参考図書

『大学生のためのキャリアガイドブック』(北大路書房、既購入)。参考書は講義中に適宜指示する。

履修上の留意点・ルール

積極的に参加し、進路の実現に向けて行動し反省し修正すること。マナーを守り、自分で考え、課題は提出メ切を守り必ず提出すること。課題提出の締め切りはクラス指導の場で示す。欠席の場合は欠席届を提出すること。

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
キャリア教育Ⅲ（健康スポーツ振興） Career Education Ⅲ		2年	前期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
1単位	演習	必修（ ）		特になし
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
特になし				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
特になし				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
加藤秀治	本館2F	授業中に指示します		授業中に指示します
授業の概要				
就職し社会人となってから役立つ様な基礎的知識や態度を身につけ、自己を生かす職業に就くために必要になる知識や技術や望ましい態度等を学ぶ。				
授業の目標				
①より良い進路実現へ向けて課題を見出し、解決へ向けて努力できるようにする。 ②職業に関わる価値観や役割や責任を理解し、心構えを作れるようにする。 ③自分がどのような職業に興味があり、向いているのかを具体的に考えられるようにする。 ④相手の伝えたいことを察し、相手を気づかいながら自分の思いを伝えられるようにする。 ⑤就職し社会人となってから役立つ様な基礎的知識や態度を身につけることができるようにする。				
授業の方法				
各クラスで個別ワークやグループワーク、アクティヴ・ラーニングを実施する。グループワークでは先生や仲間と積極的に関わるようにし、課題はキャリア形成や職場での問題解決のために必要なことを用意しているので、自己を振り返る機会を持ち、気付いたことを文章で表現するよう心掛けるようにして欲しい。				
学習の成果（学習成果）				
(1)自分の職業生活を設計できる。 (2)自己の職業への適性を知り、必要な能力を高めることができる。 (3)職場環境に適応し、そこでの問題を解決するための活路を見出すことができる。 (4)就職活動を通して進路を実現し、職場での基本的な問題の解決ができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス：シラバスと評価の仕方について 春休みの課題【課題1, 2】提出及び履修指導			
第2回目	業界研究①			
第3回目	業界研究② 進路個人面談① 【課題3】「業界研究を行った企業について」の提出			
第4回目	健康スポーツ振興及び他フィールドでの資格についての説明と確認			
第5回目	履歴書の書き方と下書き① 進路個別面談②			
第6回目	内定辞退の対処法と内定礼状等についての説明 電話でのコミュニケーションについて			

第7回目	履歴書の書き方と下書き②
第8回目	履歴書の添削・指導①
第9回目	履歴書の添削・指導② 一般常識問題の実施（国・数）
第10回目	職場での言葉遣い（敬語・謙譲語）の提出 一般常識問題の実施（英） 【課題4】「一般常識問題（国・数）」
第11回目	履歴書の添削・指導③ 一般常識問題の実施（理科・社会） 【課題5】「一般常識問題（英）」の提出
第12回目	履歴書の添削・指導④ 一般常識問題の実施（文化） 【課題6】「一般常識問題（理科・社会）」の提出
第13回目	実技を通してチームワークを学ぶ フィールド内での就職活動状況報告と質疑応答【課題7】「一般常識問題（文化）」の提出
第14回目	進路個別面談③
第15回目	進路個別面談④ 夏休みの過ごし方について

成績評価の方法と基準

評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	30%	最高水準としては、講義者の話を集中して聞き、質問に主体的に答えられること、与えられたテーマについて仲間の意見を聞き、自分の考えを述べられることが期待される。
レポート	70%	10点満点の7つ提出すること。満点＝各設問に適切に答えているか、自由記述は8割以上記入されているか。提出期限が守られているか。締め切りを過ぎたら減点する。
調査報告書		
小テスト		
試験		
発表内容（態度含む）		
その他		

教科書と参考図書

『大学生のためのキャリアガイドブック』（北大路書房、既購入）。参考書は講義中に適宜指示する。

履修上の留意点・ルール

積極的に参加し、進路の実現に向けて行動し反省し修正すること。マナーを守り、自分で考え、課題を必ず提出すること。教室への食べ物は持ち込み禁止、携帯電話の使用禁止

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
キャリア教育Ⅲ（観光ホスピタリティ） Career Education III		2年	前期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
1単位	演習	必修（ ）		特になし
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
特になし				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
特になし				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
立川 聡子	授業中に指示し ます	授業中に指示し ます		授業中に指示し ます
授業の概要				
就職し社会人となってから役立つ様な基礎的知識や態度を身につけ、自己を生かす職業に就くために必要になる知識や技術や望ましい態度等を学ぶ。				
授業の目標				
①より良い進路実現へ向けて課題を見出し、解決へ向けて努力できるようにする。 ②職業に関わる価値観や役割や責任を理解し、心構えを作れるようにする。 ③自分がどのような職業に興味があり、向いているのかを具体的に考えられるようにする。 ④相手の伝えたいことを察し、相手を気づかいながら自分の思いを伝えられるようにする。 ⑤就職し社会人となってから役立つ様な基礎的知識や態度を身につけることができるようにする。				
授業の方法				
各クラスで個別ワークやグループワーク、アクティヴ・ラーニングを実施する。グループワークでは先生や仲間と積極的に関わるようにし、課題はキャリア形成や職場での問題解決のために必要なことを用意しているので、自己を振り返る機会を持ち、気付いたことを文章で表現するよう心掛けるようにして欲しい。				
学習の成果（学習成果）				
(1)自分の職業生活を設計できる。 (2)自己の職業への適性を知り、必要な能力を高めることができる。 (3)職場環境に適応し、そこでの問題を解決するための活路を見出すことができる。 (4)就職活動を通して進路を実現し、職場での基本的な問題の解決ができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	オリエンテーション。春休みの課題を提出。 進路個別面談、進路活動報告と新聞記事の活用は毎回のレポート課題として行う、キャリアデザイン(履修計画)の再考。			
第2回目	進路個別面談、進路活動報告、新聞記事の活用、自己PRの作成:学生時代に力を入れたことについて(個別ワーク・発表)。			
第3回目	進路個別面談、進路活動報告、新聞記事の活用、会社選びの基準について自分の価値観を確認する(個別・グループワーク)。			
第4回目	進路個別面談、進路活動報告、新聞記事の活用、各自の就活スキルの弱点と解決①(個別・グループワーク)。			
第5回目	進路個別面談、進路活動報告、新聞記事の活用、各自の就活スキルの弱点と解決②(個別・グループワーク)。			
第6回目	進路個別面談、進路活動報告、新聞記事の活用、内定辞退の対処法(再確認)と内定礼状の作成(個別・グループワーク)。			

第7回目	進路個別面談、進路活動報告、新聞記事の活用、各自の就活スキルの弱点と解決③(個別・グループワーク)。
第8回目	進路個別面談、進路活動報告、新聞記事の活用、進路活動の振り返りとキャリア・カウンセリング利用の検討(個別・グループワーク)。
第9回目	進路個別面談、進路活動報告、新聞記事の活用、各自の就活スキルの弱点と解決④(個別・グループワーク)。
第10回目	進路個別面談、進路活動報告、新聞記事の活用、各自の就活スキルの弱点と解決⑤(個別・グループワーク)。
第11回目	進路個別面談、進路活動報告、新聞記事の活用、各自の就活スキルの弱点と解決⑥(個別・グループワーク)。
第12回目	進路個別面談、進路活動報告、新聞記事の活用、各自の就活スキルの弱点と解決⑦(個別・グループワーク)。
第13回目	進路個別面談、進路活動報告、新聞記事の活用、進路活動を振り返り夏休みの過ごし方について考える(個別ワーク)。
第14回目	進路個別面談、進路活動報告、新聞記事の活用、夏休みの計画を立てる(個別ワーク)。
第15回目	進路個別面談、進路活動報告のまとめ、新聞記事の活用のまとめ。発表。

成績評価の方法と基準

評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	30%	最高水準としては、講義者の話を集中して聞き、質問に主体的に答えられること、与えられたテーマについて仲間の意見を聞き、自分の考えを述べられることが期待される。
レポート	70%	春休みの課題20点分に加え、進路活動報告、新聞記事の活用 各5点をそれぞれ7つ以上提出すること。満点＝各設問に適切に答えているか、自由記述は8割以上記入されているか。締め切りを過ぎたら減点する。
調査報告書		
小テスト		
試験		
発表内容(態度含む)		
その他		

教科書と参考図書

『大学生のためのキャリアガイドブック』(北大路書房、既購入)。参考書は講義中に適宜指示する。

履修上の留意点・ルール

積極的に参加し、進路の実現に向けて行動し反省し修正すること。マナーを守り、自分で考え、課題は提出べ切を守り必ず提出すること。課題提出の締め切りはクラス指導の場で示す。欠席の場合は欠席届を提出すること。

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
キャリア教育Ⅲ (栄養士) Career Education Ⅲ		2年	前期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
1単位	演習	必修 ()		特になし
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
特になし				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
特になし				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
穂積 元 藤田 睦 駒場 啓子 野中 春奈	授業中に指示し ます	授業中に指示し ます		授業中に指示し ます
授業の概要				
就職し社会人となってから役立つ様な基礎的知識や態度を身につけ、自己を生かす職業に就くために必要になる知識や技術や望ましい態度等を学ぶ。				
授業の目標				
①より良い進路実現へ向けて課題を見出し、解決へ向けて努力できるようにする。 ②職業に関わる価値観や役割や責任を理解し、心構えを作れるようにする。 ③自分がどのような職業に興味があり、向いているのかを具体的に考えられるようにする。 ④相手の伝えたいことを察し、相手を気づかいながら自分の思いを伝えられるようにする。 ⑤就職し社会人となってから役立つ様な基礎的知識や態度を身につけることができるようにする。 ⑥栄養士の資格を目指す学生として幅広い基本知識を習得することができるようにする。 ⑦栄養士の資格を目指す学生として、コミュニケーション能力を養い状況判断ができるようにする。				
授業の方法				
各クラスで個別ワークやグループワーク、アクティヴ・ラーニングを実施する。グループワークでは先生や仲間と積極的に関わるようにし、課題はキャリア形成や職場での問題解決のために必要なことを用意しているので、自己を振り返る機会を持ち、気付いたことを文章で表現するよう心掛けるようにして欲しい。				
学習の成果 (学習成果)				
(1) 自分の職業生活を設計できる。 (2) 自己の職業への適性を知り、必要な能力を高めることができる。 (3) 職場環境に適応し、そこでの問題を解決するための活路を見出すことができる。 (4) 給食施設見学によって現場での栄養士の仕事を具体的に考えることができる。 (5) 就職活動を通して進路を実現し、職場での基本的な問題の解決ができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	講義ガイダンス (2年生としての心構えと栄養士の仕事) 課題①② 春休みの課題提出			
第2回目	全コース共通ガイダンス (病院、福祉施設、学校給食、保育園・幼稚園、商品開発コース)			
第3回目	合同セミナー (各分野における栄養士の仕事の実際①・・・病院、学校)			
第4回目	合同セミナー (各分野における栄養士の仕事の実際②・・・福祉、幼稚園・保育園)			
第5回目	合同セミナー (各分野における栄養士の仕事の実際③・・・行政、企業 (商品開発含む)) 課題③ 栄養士の役割をまとめる			
第6回目	合同セミナー (先輩栄養士の講話および給食施設見学① 病院、学校、企業等) 課題④ 講話および施設見学の感想をまとめる			

第7回目	合同セミナー（先輩栄養士の講話および給食施設見学② 福祉、幼稚園・保育園、行政等） 課題⑤ 講話および施設見学の感想をまとめる
第8回目	コース別セミナー（コース別担当者との個人面談①）
第9回目	コース別セミナー（コース別担当者との個人面談②）
第10回目	合同セミナー（各コース対象者の特性について）
第11回目	コース別セミナー（コース分け、意見交換会）
第12回目	コース別セミナー（コミュニケーション力の必要性と対象による違い）
第13回目	コース別セミナー（グループディスカッションおよび発表）
第14回目	コース別セミナー（業界研究） 課題⑥ 企業、施設、食品会社などについて調べる
第15回目	合同セミナー（まとめと卒業研究に向けて）

成績評価の方法と基準

評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	30%	最高水準としては、講義者の話を集中して聞き、質問に主体的に答えられること、与えられたテーマについて仲間の意見を聞き、自分の考えを述べられることが期待される。
レポート	60%	10点満点の課題を6つ提出すること。満点＝各設問に適切に答えているか、自由記述は8割以上記入されているか。提出期限が守られているか。締め切りを過ぎたら減点する。
調査報告書		
小テスト		
試験		
発表内容（態度含む）	10%	グループディスカッションでの内容をまとめて発表する。（決められた時間内に協力して内容をまとめている、わかりやすく明確に説明できている場合は10点とする。）
その他		

教科書と参考図書

『大学生のためのキャリアガイドブック』（北大路書房、既購入）。参考書は講義中に適宜指示する。

履修上の留意点・ルール

積極的に参加し、進路の実現に向けて行動し反省し修正すること。マナーを守り、自分で考え、フィールドごとの課題を必ず提出すること。欠席した場合は学生支援課で共通の講義資料を受け取ること。課題の提出メ切はクラス指導の場で示す。第6回、第7回は給食施設見学のため校外授業となる。受け入れ施設の都合により、日程時間は変更になることがある。

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
キャリア教育Ⅲ (社会福祉士) Career Education III		2年	前期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
1単位	演習	必修 ()		特になし
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
特になし				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
特になし				
担当者に関する情報				
氏名		研究室の場所	オフィスアワー	電話番号・メールアドレス
大熊 信成 / 中島 佳子		授業中に指示し ます	授業中に指示し ます	授業中に指示し ます
授業の概要				
就職し社会人となってから役立つ様な基礎的知識や態度を身につけ、自己を生かす職業に就くために必要になる知識や技術や望ましい態度等を学ぶ。				
授業の目標				
①より良い進路実現へ向けて課題を見出し、解決へ向けて努力できるようにする。 ②職業に関わる価値観や役割や責任を理解し、心構えを作れるようにする。 ③自分がどのような職業に興味があり、向いているのかを具体的に考えられるようにする。 ④相手の伝えたいことを察し、相手を気づかいながら自分の思いを伝えられるようにする。 ⑤就職し社会人となってから役立つ様な基礎的知識や態度を身につけることができるようにする。				
授業の方法				
個別ワークやグループワーク、アクティヴ・ラーニングを実施する。グループワークでは先生や仲間と積極的に関わるようにし、課題はキャリア形成や職場での問題解決のために必要なことを用意しているので、自己を振り返る機会を持ち、気付いたことを文章で表現するよう心掛けるようにして欲しい。				
学習の成果 (学習成果)				
(1)自分の職業生活を設計できる。 (2)自己の職業への適性を知り、必要な能力を高めることができる。 (3)職場環境に適応し、そこでの問題を解決するための活路を見出すことができる。 (4)就職活動を通して進路を実現し、職場での基本的な問題の解決ができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	オリエンテーション / 履修指導 【課題①② 春休みの課題】			
第2回目	希望する進路の実現に向けて (介護福祉士フィールドと合同)			
第3回目	キャリア講演会 (人事担当者) 【課題③ 感想文レポート】 (介護福祉士フィールドと合同)			
第4回目	履歴書の書き方のまとめ			
第5回目	履歴書の書き方のまとめ 【課題④ 履歴書】 (介護福祉士フィールドと合同)			
第6回目	小論文指導 (60分模擬試験) 【課題⑤ 小論文】 (介護福祉士フィールドと合同)			

第7回目	面接の受け方・模擬質問 【課題⑥ 模擬問題】 (介護福祉士フィールドと合同)
第8回目	小論文指導 (60分模擬試験) (介護福祉士フィールドと合同)
第9回目	集団模擬面談 (介護福祉士フィールドと合同)
第10回目	個人模擬面談 【課題⑦ 面接のふりかえり】
第11回目	求人票収集と就職希望先の分析・研究
第12回目	進路個別面接
第13回目	進路個別面接
第14回目	進路個別面接
第15回目	まとめ・夏休みの過ごし方について

成績評価の方法と基準

評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	30%	最高水準としては、講義者の話を集中して聞き、質問に主体的に答えられること、与えられたテーマについて仲間の意見を聞き、自分の考えを述べられることが期待される。
レポート	70%	10点満点の7つ提出すること。満点＝各設問に適切に答えているか、自由記述は8割以上記入されているか。提出期限が守られているか。締め切りを過ぎたら減点する。
調査報告書		
小テスト		
試験		
発表内容 (態度含む)		
その他		

教科書と参考図書

『大学生のためのキャリアガイドブック』（北大路書房、既購入）。参考書は講義中に適宜指示する。

履修上の留意点・ルール

積極的に参加し、進路の実現に向けて行動し反省し修正すること。マナーを守り、自分で考え、課題は提出べ切を守り必ず提出すること。課題提出の締め切りはクラス指導の場で示す。欠席の場合は欠席届を提出すること。

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
キャリア教育Ⅲ (介護福祉士) Career Education III		2年	前期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
1単位	演習	必修 ()		特になし
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
特になし				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
特になし				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
和田 晴美、他	授業中に指示し ます	授業中に指示し ます		授業中に指示し ます
授業の概要				
就職し社会人となってから役立つ様な基礎的知識や態度を身につけ、自己を生かす職業に就くために必要になる知識や技術や望ましい態度等を学ぶ。				
授業の目標				
①より良い進路実現へ向けて課題を見出し、解決へ向けて努力できるようにする。 ②職業に関わる価値観や役割や責任を理解し、心構えを作れるようにする。 ③自分がどのような職業に興味があり、向いているのかを具体的に考えられるようにする。 ④相手の伝えたいことを察し、相手を気づかいながら自分の思いを伝えられるようにする。 ⑤就職し社会人となってから役立つ様な基礎的知識や態度を身につけることができるようにする。				
授業の方法				
各クラスで個別ワークやグループワーク、アクティヴ・ラーニングを実施する。グループワークでは先生や仲間と積極的に関わるようにし、課題はキャリア形成や職場での問題解決のために必要なことを用意しているので、自己を振り返る機会を持ち、気付いたことを文章で表現するよう心掛けるようにして欲しい。				
学習の成果 (学習成果)				
(1)自分の職業生活を設計できる。 (2)自己の職業への適性を知り、必要な能力を高めることができる。 (3)職場環境に適応し、そこでの問題を解決するための活路を見出すことができる。 (4)就職活動を通して進路を実現し、職場での基本的な問題の解決ができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	オリエンテーション / 履修指導 課題①② 春休みの課題回収			
第2回目	希望する進路の実現に向けて (社会福祉士フィールドと合同) (新井)			
第3回目	キャリア講演会 (人事担当者) 課題③ 感想文レポート (社会福祉士フィールドと合同)			
第4回目	高齢者や障害者が使いやすい用具について考える学習 (発表会) (久保)			
第5回目	履歴書の書き方のまとめ 課題④ 履歴書 (社会福祉士フィールドと合同)			
第6回目	小論文指導 (60分模擬試験) 課題⑤ 小論文 (社会福祉士フィールドと合同)			

第7回目	面接の受け方・模擬質問 課題⑥ 模擬問題 (社会福祉士フィールドと合同)
第8回目	小論文指導 (60分模擬試験) (社会福祉士フィールドと合同)
第9回目	集団模擬面談 (社会福祉士フィールドと合同)
第10回目	個人模擬面談 課題⑦ 面接のふりかえり
第11回目	求人票収集と就職希望先の分析・研究
第12回目	進路個別面接
第13回目	進路個別面接
第14回目	進路個別面接
第15回目	まとめ・夏休みの過ごし方について

成績評価の方法と基準

評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	30%	最高水準としては、講義者の話を集中して聞き、質問に主体的に答えられること、与えられたテーマについて仲間の意見を聞き、自分の考えを述べられることが期待される。
レポート	70%	10点満点の7つ提出すること。満点＝各設問に適切に答えているか、自由記述は8割以上記入されているか。提出期限が守られているか。締め切りを過ぎたら減点する。
調査報告書		
小テスト		
試験		
発表内容 (態度含む)		
その他		

教科書と参考図書

『大学生のためのキャリアガイドブック』（北大路書房、既購入）。参考書は講義中に適宜指示する。

履修上の留意点・ルール

積極的に参加し、進路の実現に向けて行動し反省し修正すること。マナーを守り、自分で考え、課題は提出べ切を守り必ず提出すること。課題提出の締め切りはクラス指導の場で示す。欠席の場合は欠席届を提出すること。

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
キャリア教育Ⅲ (こども) Career Education Ⅲ		2年	前期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
1単位	演習	必修 ()		特になし
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
特になし				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
特になし				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
岡泉志のぶ・小竹利夫・松崎勇人 他	授業中に指示し ます	授業中に指示し ます		授業中に指示し ます
授業の概要				
就職し社会人となってから役立つ様な基礎的知識や態度を身につけ、自己を生かす職業に就くために必要になる知識や技術や望ましい態度等を学ぶ。				
授業の目標				
①より良い進路実現へ向けて課題を見出し、解決へ向けて努力できるようにする。 ②職業に関わる価値観や役割や責任を理解し、心構えを作れるようにする。 ③自分がどのような職業に興味があり、向いているのかを具体的に考えられるようにする。 ④相手の伝えたいことを察し、相手を気づかいながら自分の思いを伝えられるようにする。 ⑤就職し社会人となってから役立つ様な基礎的知識や態度を身につけることができるようにする。 ⑥地域連携事業やボランティア活動に積極的に参加し、社会に貢献する意識を持てるようにする。				
授業の方法				
各クラスで個別ワークやグループワーク、アクティヴ・ラーニングを実施する。グループワークでは先生や仲間と積極的に関わるようにし、課題はキャリア形成や職場での問題解決のために必要なことを用意しているので、自己を振り返る機会を持ち、気付いたことを文章で表現するよう心掛けるようにして欲しい。				
学習の成果 (学習成果)				
(1)自分の職業生活を設計できる。 (2)自己の職業への適性を知り、必要な能力を高めることができる。 (3)職場環境に適応し、そこでの問題を解決するための活路を見出すことができる。 (4)地域連携事業やボランティア活動に関心を持ち、社会に貢献する意識を高めることができる。 (5)就職活動を通して進路を実現し、職場での基本的な問題の解決ができるようになる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	オリエンテーション (小竹) クラス担任に春休み課題2つ【課題1, 2】を提出、履修指導、春期の予定確認 (クラス別指導60分) 岡泉・小竹・松崎			
第2回目	地域支援活動① (岡泉) (クラス別指導45分) 岡泉・小竹・松崎 【課題3】子育て応援広場感想文			
第3回目	ボランティアについて① (小竹) (クラス別指導45分) 岡泉・小竹・松崎 【課題4】課外演習活動レポート			
第4回目	チームワークと仕事の仕方 (松崎) (クラス別指導45分) 岡泉・小竹・松崎			
第5回目	就職活動と履歴書 (松崎・秋山・学生支援課) (クラス別指導45分) 岡泉・小竹・松崎 【課題5】履歴書			
第6回目	面接試験に向けて (秋山・岡泉・小竹・松崎) (クラス別指導45分) 岡泉・小竹・松崎			

第7回目	ボランティアについて②（小竹）（クラス別指導45分）岡泉・小竹・松崎
第8回目	実習とキャリア形成①（フィールド全教員）【課題6】「実習を終えて」①を配布（クラス別指導なし）
第9回目	学校という場における地域貢献活動を考える①（クラス別指導60分）岡泉・小竹・松崎 ※教育実習により補講
第10回目	学校という場における地域貢献活動を考える②（クラス別指導90分）岡泉・小竹・松崎 ※教育実習により補講
第11回目	学校という場における地域貢献活動を考える③（クラス別指導90分）岡泉・小竹・松崎 ※教育実習により補講
第12回目	実習の省察と進路の検討①（フィールド全教員）【課題6】「実習を終えて」①（クラス別指導45分）岡泉・小竹・松崎
第13回目	キャリア講話（久保田）【課題7】講話の感想文（クラス別指導45分）岡泉・小竹・松崎
第14回目	地域支援活動②（岡泉）（クラス別指導45分）岡泉・小竹・松崎
第15回目	まとめ（小竹） 実習とキャリア形成②（フィールド全教員）（クラス別指導なし）

成績評価の方法と基準

評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	30%	最高水準としては、講義者の話を集中して聞き、質問に主体的に答えられること、与えられたテーマについて仲間の意見を聞き、自分の考えを述べられることが期待される。
レポート	70%	10点満点の7つ提出すること。満点＝各設問に適切に答えているか、自由記述は8割以上記入されているか。提出期限が守られているか。締め切りを過ぎたら減点する。
調査報告書		
小テスト		
試験		
発表内容（態度含む）		
その他		

教科書と参考図書

『大学生のためのキャリアガイドブック』（北大路書房、既購入）。参考書は講義中に適宜指示する。

履修上の留意点・ルール

積極的に参加し、進路の実現に向けて行動し反省し修正すること。マナーを守り、自分で考え、フィールドごとの課題を必ず提出すること。課題の提出メ切りは原則として1週間後とするが、イレギュラーの場合はクラス指導の場で示す。

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
キャリア教育Ⅲ（英語コミュニケーション） Career Education III		2年	前期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
1単位	演習	必修（ ）		特になし
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
特になし				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
特になし				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
堤 裕美子	授業中に指示し ます	授業中に指示し ます		授業中に指示し ます
授業の概要				
就職し社会人となってから役立つ様な基礎的知識や態度を身につけ、自己を生かす職業に就くために必要になる知識や技術や望ましい態度等を学ぶ。				
授業の目標				
①より良い進路実現へ向けて課題を見出し、解決へ向けて努力できるようにする。 ②職業に関わる価値観や役割や責任を理解し、心構えを作れるようにする。 ③自分がどのような職業に興味があり、向いているのかを具体的に考えられるようにする。 ④相手の伝えたいことを察し、相手を気づかいながら自分の思いを伝えられるようにする。 ⑤就職し社会人となってから役立つ様な基礎的知識や態度を身につけることができるようにする。				
授業の方法				
各クラスで個別ワークやグループワーク、アクティヴ・ラーニングを実施する。グループワークでは先生や仲間と積極的に関わるようにし、課題はキャリア形成や職場での問題解決のために必要なことを用意しているので、自己を振り返る機会を持ち、気付いたことを文章で表現するよう心掛けるようにして欲しい。				
学習の成果（学習成果）				
(1)自分の職業生活を設計できる。 (2)自己の職業への適性を知り、必要な能力を高めることができる。 (3)職場環境に適応し、そこでの問題を解決するための活路を見出すことができる。 (4)就職活動を通して進路を実現し、職場での基本的な問題の解決ができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	オリエンテーション。春休みの課題を提出。 進路個別面談、進路活動報告と新聞記事の活用は毎回のレポート課題として行う、キャリアデザイン(履修計画)の再考。			
第2回目	進路個別面談、進路活動報告、新聞記事の活用、自己PRの作成:学生時代に力を入れたことについて(個別ワーク・発表)。			
第3回目	進路個別面談、進路活動報告、新聞記事の活用、会社選びの基準について自分の価値観を確認する(個別・グループワーク)。			
第4回目	進路個別面談、進路活動報告、新聞記事の活用、各自の就活スキルの弱点と解決①(個別・グループワーク)。			
第5回目	進路個別面談、進路活動報告、新聞記事の活用、各自の就活スキルの弱点と解決②(個別・グループワーク)。			
第6回目	進路個別面談、進路活動報告、新聞記事の活用、内定辞退の対処法(再確認)と内定礼状の作成(個別・グループワーク)。			

第7回目	進路個別面談、進路活動報告、新聞記事の活用、各自の就活スキルの弱点と解決③(個別・グループワーク)。
第8回目	進路個別面談、進路活動報告、新聞記事の活用、進路活動の振り返りとキャリア・カウンセリング利用の検討(個別・グループワーク)。
第9回目	進路個別面談、進路活動報告、新聞記事の活用、各自の就活スキルの弱点と解決④(個別・グループワーク)。
第10回目	進路個別面談、進路活動報告、新聞記事の活用、各自の就活スキルの弱点と解決⑤(個別・グループワーク)。
第11回目	進路個別面談、進路活動報告、新聞記事の活用、各自の就活スキルの弱点と解決⑥(個別・グループワーク)。
第12回目	進路個別面談、進路活動報告、新聞記事の活用、各自の就活スキルの弱点と解決⑦(個別・グループワーク)。
第13回目	進路個別面談、進路活動報告、新聞記事の活用、進路活動を振り返り夏休みの過ごし方について考える(個別ワーク)。
第14回目	進路個別面談、進路活動報告、新聞記事の活用、夏休みの計画を立てる(個別ワーク)。
第15回目	進路個別面談、進路活動報告のまとめ、新聞記事の活用のまとめ。発表。

成績評価の方法と基準

評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	30%	最高水準としては、講義者の話を集中して聞き、質問に主体的に答えられること、与えられたテーマについて仲間の意見を聞き、自分の考えを述べられることが期待される。
レポート	70%	春休みの課題20点分に加え、進路活動報告、新聞記事の活用 各5点をそれぞれ7つ以上提出すること。満点＝各設問に適切に答えているか、自由記述は8割以上記入されているか。締め切りを過ぎたら減点する。
調査報告書		
小テスト		
試験		
発表内容(態度含む)		
その他		

教科書と参考図書

『大学生のためのキャリアガイドブック』(北大路書房、既購入)。参考書は講義中に適宜指示する。

履修上の留意点・ルール

積極的に参加し、進路の実現に向けて行動し反省し修正すること。マナーを守り、自分で考え、課題は提出メ切を守り必ず提出すること。課題提出の締め切りはクラス指導の場で示す。欠席の場合は欠席届を提出すること。

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
キャリア教育Ⅲ（医療事務・メンタルヘルス） Career Education Ⅲ		2年	前期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
1単位	演習	必修	(医師事務作業補助技能認定試験対策講座)	医療事務技能認定試験合格者
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
医療事務関係科目				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
電子カルテ、ICDコーディングⅠ・Ⅱ				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
古川 貴子・小竹 仁美	授業中に指示します	授業中に指示します		授業中に指示します
授業の概要				
就職し社会人となってから役立つ様な基礎的知識や態度を身につけ、自己を生かす職業に就くために必要になる知識や技術や望ましい態度等を学ぶ。				
授業の目標				
①より良い進路実現へ向けて課題を見出し、解決へ向けて努力できるようにする。 ②職業に関わる価値観や役割や責任を理解し、心構えを作れるようにする。 ③自分がどのような職業に興味があり、向いているのかを具体的に考えられるようにする。 ④相手の伝えたいことを察し、相手を気づかいながら自分の思いを伝えられるようにする。 ⑤就職し社会人となってから役立つ様な基礎的知識や態度を身につけることができるようにする。 ⑥医師事務作業補助者としての専門職の必要性と役割の理解ができるようにする。 ⑦技能職として医師事務作業補助者の資格試験に合格できるようにする。				
授業の方法				
各クラスで個別ワークやグループワーク、アクティヴ・ラーニングを実施する。グループワークでは先生や仲間と積極的に関わるようにし、課題はキャリア形成や職場での問題解決のために必要なことを用意しているので、自己を振り返る機会を持ち、気付いたことを文章で表現するよう心掛けるようにして欲しい。				
学習の成果（学習成果）				
(1)自分の職業生活を設計できる。 (2)自己の職業への適性を知り、必要な能力を高めることができる。 (3)職場環境に適応し、そこでの問題を解決するための活路を見出すことができる。 (4)専門職の知識と必要性を理解することで将来設計を明確化することができる。 (5)就職活動を通して進路を実現し、職場での基本的な問題の解決ができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	オリエンテーション 医療機関の組織と理解 (課題1・2 春休みの宿題提出)			
第2回目	専門職の役割と必要性の理解			
第3回目	医療事務と医師事務作業補助者の仕事と役割の違い (課題3:医療事務と医師事務作業補助者の違いについて)			
第4回目	医療スタッフとの関わりとコミュニケーションの取り方①(グループワーク)			
第5回目	医療スタッフとの関わりとコミュニケーションの取り方②(グループワーク) (課題4:医療機関でのコミュニケーションの必要性について)			
第6回目	カルテからの読みとる症例 ①			

第7回目	カルテからの読みとる症例 ②
第8回目	カルテからの読みとる症例 ③ (課題5:診療情報提供作成)
第9回目	カルテからの読みとる症例 ④
第10回目	カルテからの読みとる症例 ⑤ (課題6:入院証明書作成)
第11回目	医師事務作業補助技能認定試験対策 I
第12回目	医師事務作業補助技能認定試験対策 II (課題7:傷病手当金作成)
第13回目	医師事務作業補助技能認定試験対策 III
第14回目	医師事務作業補助技能認定試験対策 IV (課題8:出生証明書作成)
第15回目	医師事務作業補助技能認定試験対策 ・まとめ (課題9:主治医意見書作成)

成績評価の方法と基準

評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	30%	最高水準としては、講義者の話を集中して聞き、質問に主体的に答えられること、与えられたテーマについて仲間の意見を聞き、自分の考えを述べられることが期待される。
レポート	70%	課題3～6は5点満点。それ以外は10点満点。満点＝各設問に適切に答えている、自由記述は8割以上記入されている。締め切りを過ぎたら減点する。
調査報告書		
小テスト		
試験		
発表内容(態度含む)		
その他		

教科書と参考図書

『大学生のためのキャリアガイドブック』(北大路書房、既購入)。参考書は講義中に適宜指示する。

履修上の留意点・ルール

積極的に参加し、進路の実現へ向け行動し反省し修正すること。マナーを守り、自分で考え、フィールド毎の課題を必ず提出すること。欠席した場合は学生支援課で共通の講義資料を受け取る。課題の提出は切はクラス指導の場で示す。